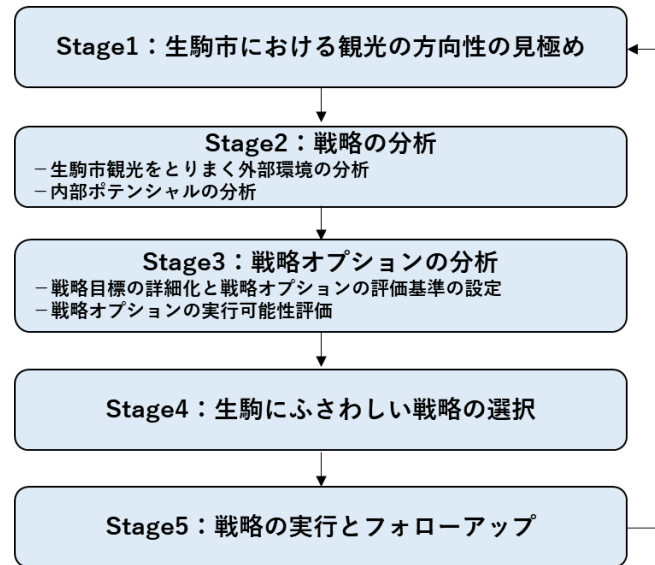


資料 7

第 1 回観光分科会において意見をうかがいたい点
住宅都市における観光の役割、観光振興のための戦略（第 2 回分
科会で提示予定）を策定するために

生駒市における観光の方向性

観光戦略プランニング



Q1：生駒市において観光振興を図るとすれば、その基本的方向はどのようなものか。住宅都市と観光地では、めざす観光ビジョンは異なるのではないか？

Q1：観光は日本経済を支える大きな産業として位置づけられるようになってきている。その最大のねらいは、旅行者の消費が地域経済に恩恵をもたらすことである。しかし、観光は自然、歴史、文化、食材等、地域の資源を活用した地域密着型産業であり、観光振興は単に経済だけでなく、市民生活にも多くの影響を与える要素を持っているのではないか。住宅都市である生駒市において、観光を振興することの意義は、経済以外にも考えられないか。

Q2：市民ニーズと観光ニーズは共通の要素か？

[市民アンケート調査]

今後増えてほしい業態の店舗として、大型商業施設やショッピングセンターが多く挙げられているが、次いで「外食サービス」「趣味・娯楽関連用品」「洋服・衣料品」などへのニーズが高く、趣味・娯楽・レクリエーションにつながるサービスへのニーズが高くなっていることがうかがえる。

生駒市の観光ポテンシャルをとらえる

- ①Accessibility (近接性)
- ②Accommodation (宿泊施設)
- ③Attraction (観光名所、集客施設)

近接性

	近鉄奈良駅	JR京都駅
関空	1時間41分	1時間27分
東京駅	3時間20分	2時間14分
大阪駅	56分	29分
乗換案内で検索		

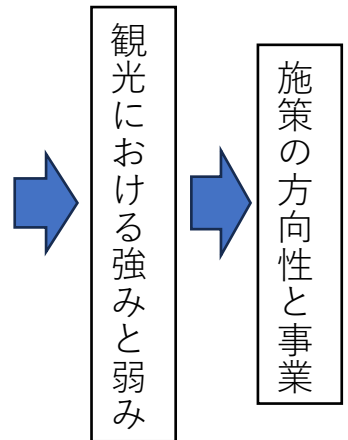
Q1：生駒市の観光はどこからの観光客が多いのか？近接性は出発地・経由地を確認して近接性を判断する必要があるのではないか。

Q2：生駒市観光にとって宿泊施設をどのように考えればよいか。観光客向けの宿泊施設は必要か。

Q3：生駒市にある観光プロダクトは何か。

生駒市の観光プロダクト

	観光プロダクト	生駒にあるもの
地域の裁 量が及ぶ もの	集客施設（テーマパーク、リゾート施設等）	
	文化（博物館等の文化施設、無形文化資産）	
	宿泊施設	
	おもてなし	
	街並み	
	治安	
地域にと って外 生的な もの	そのほかに生駒市にあるもの	
	地理的位置	
	気候	
	自然資源（山、海岸、湖等）	
	歴史遺産	
	空港・高速道路・鉄道等の基幹インフラ	
	そのほかに生駒市にあるもの	



生駒市における観光の集客力を増やしたい

再掲

観光地利用者数（人）

	高山竹林園		（山麓公園＋野 活）合計		宝山寺	
	利用者数	指数	利用者数	指数	利用者数	指数
2013	39,662	100.0	299,783	100.0	1,041,000	100.0
2014	47,575	120.0	291,336	97.2	1,030,000	98.9
2015	44,969	113.4	264,815	88.3	1,020,000	98.0
2016	30,916	77.9	243,310	81.2	1,045,000	100.4
2017	24,479	61.7	287,988	96.1	988,000	94.9
2018	26,739	67.4	232,398	77.5	952,000	91.5
2019	27,576	69.5	234,333	78.2	933,000	89.6
2020	21,167	53.4	168,954	56.4	869,000	83.5
2021	24,959	62.9	185,830	62.0	768,000	73.8

資料）生駒市資料。

Q1：生駒市にある観光地は趨勢として利用者数を減らしている。その背景には何があるか。

Q2：利用者数を増やすことは可能か。増やすために必要な条件は何か。

現行ビジョンの検証と「選択と集中」

Q1：現行ビジョンではさまざまな事業が上がっている。新ビジョンにおいてとくに重要と思われるものは何か。また、これらの事業を推進し、効果を発揮していくうえで解決すべき課題は何か。

	施策の方向	事業	進捗状況	
観光	体験型観光の推進	歴史・文化・自然など地域資源の価値を、市外あるいは海外など、第三者の視点で客観的に再評価し、改めて市民と共有し、活用方法やPRを協働で進める。特に、地域の歴史文化や自然資源、産業拠点等を活用した体験型観光メニューの充実に向け、関係者との連携を図る。	商工会議所主催で、観光アドバイザーによる勉強会	実施
			市内ツアー商品の販売	実施
			着地型観光商品の造成・モニターツアー	実施
	観光ネットワークの形成	奈良市やけいはんな学研都市を始めとする近隣地域との連携により、地域住民など身近な観光客の誘導や学術研究、お茶などテーマ型観光の魅力の向上を図る。	近隣地からの観光客の誘致	×
			「竹あかり」などテーマ型観光の取組	実施
			生駒山のブランド化に向けワーケーションやe-bike	実施
			マップづくりや生駒山での市民やインフルエンサー、旅行関係者向けモニターツアー	実施
	観光推進体制の強化	海外を含め市外に対する情報発信を強化するとともに、インバウンドを含む来訪者を受け入れる体制及び観光振興に主体的に取り組む組織の整備を推進する。	サイエンス等その他のテーマ型観光	×
			観光案内所の設置・多言語対応の情報発信等	×
			観光協会の望ましいあり方の検討	×
	集客拠点の設定	宝山寺参道や生駒山など集客拠点となる地域・エリアを設定し、観光振興のモデルとして、情報発信や地域の魅力向上に向けた取組を集中的に支援する。	市民の主体的な活動の支援、宿泊施設への大学生の誘致等（大学との連携）	×
			ケーブルイベント、バスツアー、ハイキングイベント	実施
			生駒山を舞台とした観光パンフレットの作成や旅行商品の造成、「生駒レトロ」プロモーション等、大学生による観光振興策の提案	実施